

「ふるさとを愛し 夢を育む 賢く優しくたくましい子」

- ・(ひ) 人の話をしっかり「きく」ことのできる子
- ・(や) やさしく 思いやりのある子
- ・(く) くじけず 最後までがんばる子
- ・(た) たくましく 健康な子



<http://www.hyakuta.m-alps.ed.jp/>

### 校外学習も本格化

運動会が終わり、勉強に熱が入るとともに、各学年の校外学習も本格的に始まりました。7日には2年生が生活科見学で遊亀公園に行き獣医さんのお話を聞きました。また桔梗屋さんでは工場見学をするなど、たくさんの学びができました。8日には1年生が科学館に生活科見学に出かけました。館内の見学に加え、サイエンスショーやプラネタリウム、実験工作など、楽しい1日を過ごしてきたようです。



桔梗屋



獣医さんのお話



科学館



サイエンスショー

### お知らせ① SDGs の取組の一つとして

学校の玄関からホールの間、インカートリッジの回収箱があります。使用済みカートリッジは貴重な資源になるということで、お家のほうで捨てられる場合には、ぜひ回収箱に入れに来ていただくか児童に持たせて回収箱に入れてもらうかなど、ぜひご協力をお願いします。なお、ペットボトルキャップも日常的にボランティア委員会で集めています。



### お知らせ② Jアラート発令時について

弾道ミサイルに関わるJアラート(全国瞬時警報システム)が山梨県に発信された場合には、状況を確認の上、以下を基準とします。

- ① 在宅中・・・自宅ですぐに安全に留意し待機。できるだけ窓から離れる。できれば窓のない部屋に移動する。解除された場合の登校については、メール連絡。
- ② 登下校中・・・近くの建物に避難する。また、適当な建物がない場合は、物陰に身を隠すか地面に伏せて頭部を守る。(学校近くにいる場合には、急いで校舎内へ避難)
- ③ 在校中・・・学校で待機。解除されない場合の下校については、メール連絡。

## まずは、相手のことを考えてみる

「地獄と極楽の長い箸」という説話からです。

昔、ある所に地獄と天国の見学に出かけた男がいます。どちらも同じ食器で、同じ箸で、同じものを食べています。ただ、この箸はとても変わっていて、ものすごく長いのだそうです。人の背丈ほどもある長いものなので、食べ物をはさむことはできますが、長すぎてうまく食べ物を運べません。



地獄の人たちは、我先に食事にありつこうとしますが、どうしても食べられません。お腹がすいているのに食べられなくてイライラしています。そのうちにけんかも始まってしまいました。ところが、極楽の人たちは、いつも誰もがお腹いっぱいいただいて大満足です。どちらも長い箸を使っているのに、いったい何が違うのでしょうか。実は、極楽の人たちは食べ物をはさむと、自分で食べずに向かい側の人に食べさせてあげていたのです。そうすると、向かい側の人が今度は自分にさせてくれます。こうしてお互いに食べさせてあげることで、みんなお腹いっぱいになることができていたのです。この男は、「なるほど、さすが極楽の住人たちは心がけが違うなあ」と、大いに感心したそうです。

このように、自分のことよりも相手のことを先に考えて行動すると、互いにより思いをすることがあると思います。これはけっして話の中だけのことでなく、実際の生活の中でもよく起きることでしょう。ミキハウスの社長で、木村暁一さんという人がいます。木村さんは、会社を作ったばかりのころ、いろいろなところにセールスに出かけましたが、売れるどころか、話も聞いてもらえなかったそうです。あまりにも断られるので、木村さんはどうしたらいいかをよく考え、「このお店に何かお役に立つことはないでしょうか?」と尋ねることにしたそうです。それまでは、すぐに「取引してほしい」と話していたのですが、それより先に相手のお店の役に立たないだろうか、ということ考えたのです。それから、相手のお店の方が次々に友達のお店を紹介してくれて、たくさんの注文をもらうことができるようになったそうです。木村さんは、最初は自分の立場で考えて「物を買ってくれ」という気持ちでいましたが、途中から相手の立場で考え、相手のために何ができるかをまず考えようとしたのです。



また、ある温泉町のこと、お客さんがめっきり減ってしまっていました。そうなるとうちのところにお客を呼びたくて、それぞれの宿が勝手に看板を立てるので、いい景色が台無しになり、ますますお客さんの足が遠のいたということです。そんな中、一軒だけ流行っていた旅館の御主人が、自分のやり方を全部教えるから、競争をやめ、木を植えたり露天風呂をつくったりして町を盛り上げようと呼びかけたそうです。この人は、自分の旅館さえお客さんがくればいいという考えではなく、町全体がよくなるのが大事だと提案したわけです。その結果、その温泉町の旅館全部が、数か月先まで予約でいっぱいになったのだそうです。



私たちも、ともすると自分のことばかりを第一に考えてしまいがちになってしまいます。自分を大切にすることはもちろん良いことですが、生活をしていると、そればかりを考えていてはうまくいかないこともたくさんあります。自分のことよりも、相手のことをまず考えてみる。それが結局は、自分のとってもよいことにつながる（自利利他の精神）。そんな体験を、子供たちにはたくさんしてもらいたいものです。気持ちの良い毎日のため・・・大人も子供も、まずは相手を思いやって。